



# スポーツが大学の愛着に 与える影響

東北学院大学 天野ゼミナール

○佐藤 蓮      加藤 太一      清水端 玲生      三浦 拓真  
水上 卯月      村上 明日香      森谷 綾香      渡邊 砂和花

# 目次



**1 緒言**

**2 目的**

**3 方法**

**4 結果・考察**

**5 結論**

**6 政策提言**

# 1 緒言



## スポーツ



密接

## 大学生活



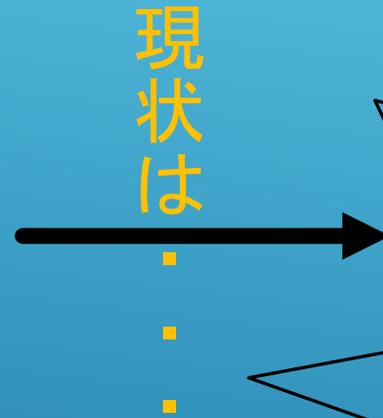


# 1 緒言

大学への愛着度が高い



大学生活への  
満足度が高い



不満

無気力

例えば 河合(2007) 大学体育会参加の所属・  
性別・学年と生活満足度の関係 など

現在UNIVASでは・・・

OBなどの動員減

愛校心で  
応援文化醸成

大学ロゴの統一

そして

- ・ **大学スポーツの活性化**
- ・ **愛校心の醸成**に繋がる

自分たちで調査することで何か具体的な提言をすることはできないだろうか



## 2 目的

仮説

大学への愛着

人間関係

環境

関わり?

スポーツ

## 2 目的



愛着の形成に関わっている要因とは？  
愛着を高めるためにはスポーツと  
どう関わるべきなのか？



調査

大学への愛校心とスポーツ  
の結びつきを調べる

# 3 方法

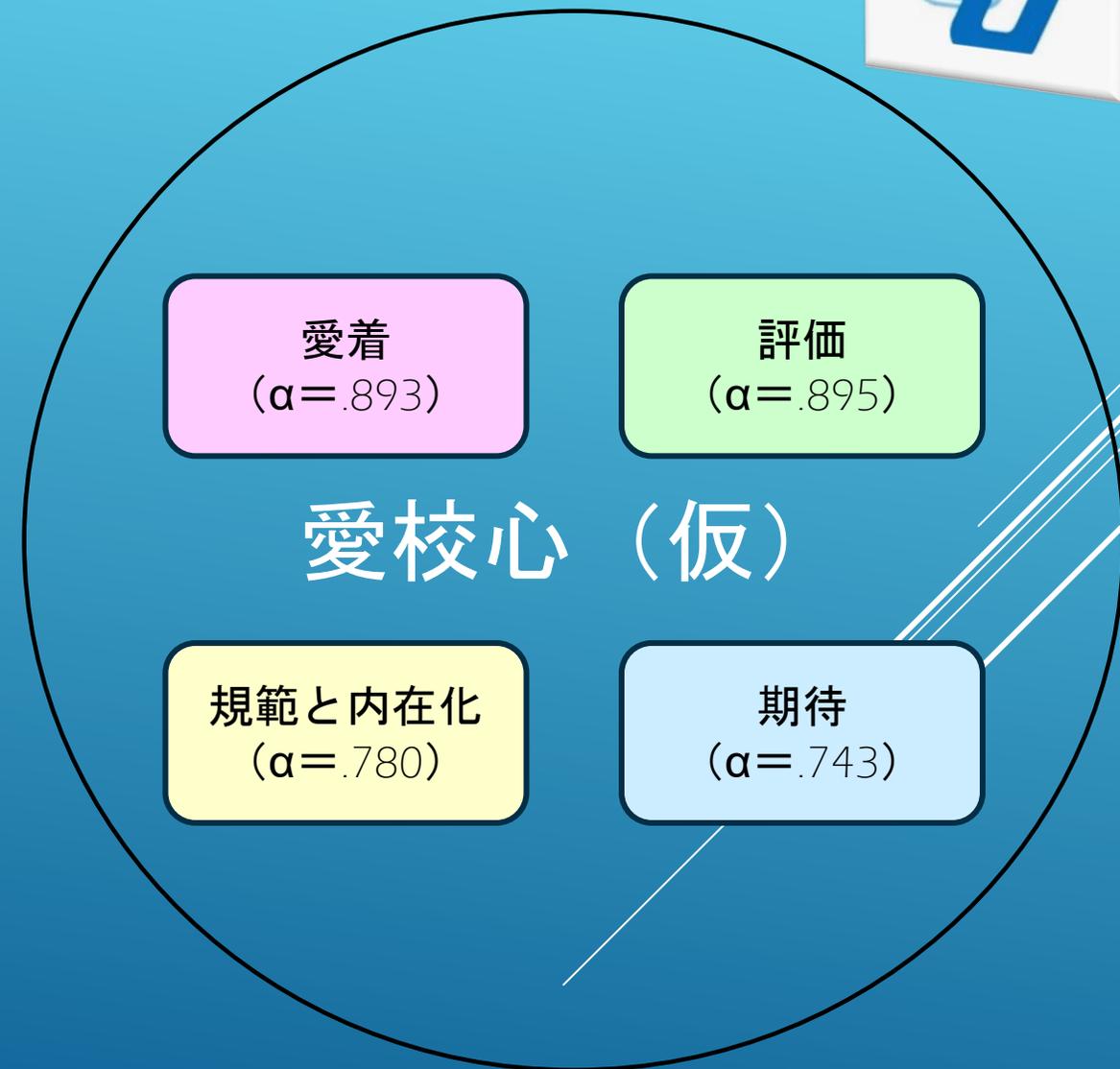


## 《事前調査》

期間 H30.7.15 ~ 7.30

対象 東北学院大学の学生

愛着 37項目 購買動機 12項目



# 3 方法



《本調査》 WEB調査 (Google form)

**期間** H30.9.20 ~ 10.15

**対象** 東北学院大学 東北福祉大学 仙台大学 尚絅学院大学  
山形大学 筑波大学 南山大学 早稲田大学 明治大学  
作新学院大学 関東学院大学

**サンプル数** 343 (欠損値52) **有効回答率** 84.8%

**分析方法** SPSS22を使用し、項目分析、記述統計、  
一般線形分析 (多変量)、重回帰、分散分析など

# 3 方法



購買動機 16項目

部活動の組織愛着 11項目

大学生活の満足 10項目

大学の愛校心 34項目

観戦動機 24項目

その他（学年・入試形態等）

計106項目



# 4 結果・考察

## 《事前調査》

スポーツ活動を通し、  
愛着・評価・規範と内在化・期待  
を高めれば、大学への愛校心を  
高めることができるのでは？

スポーツを

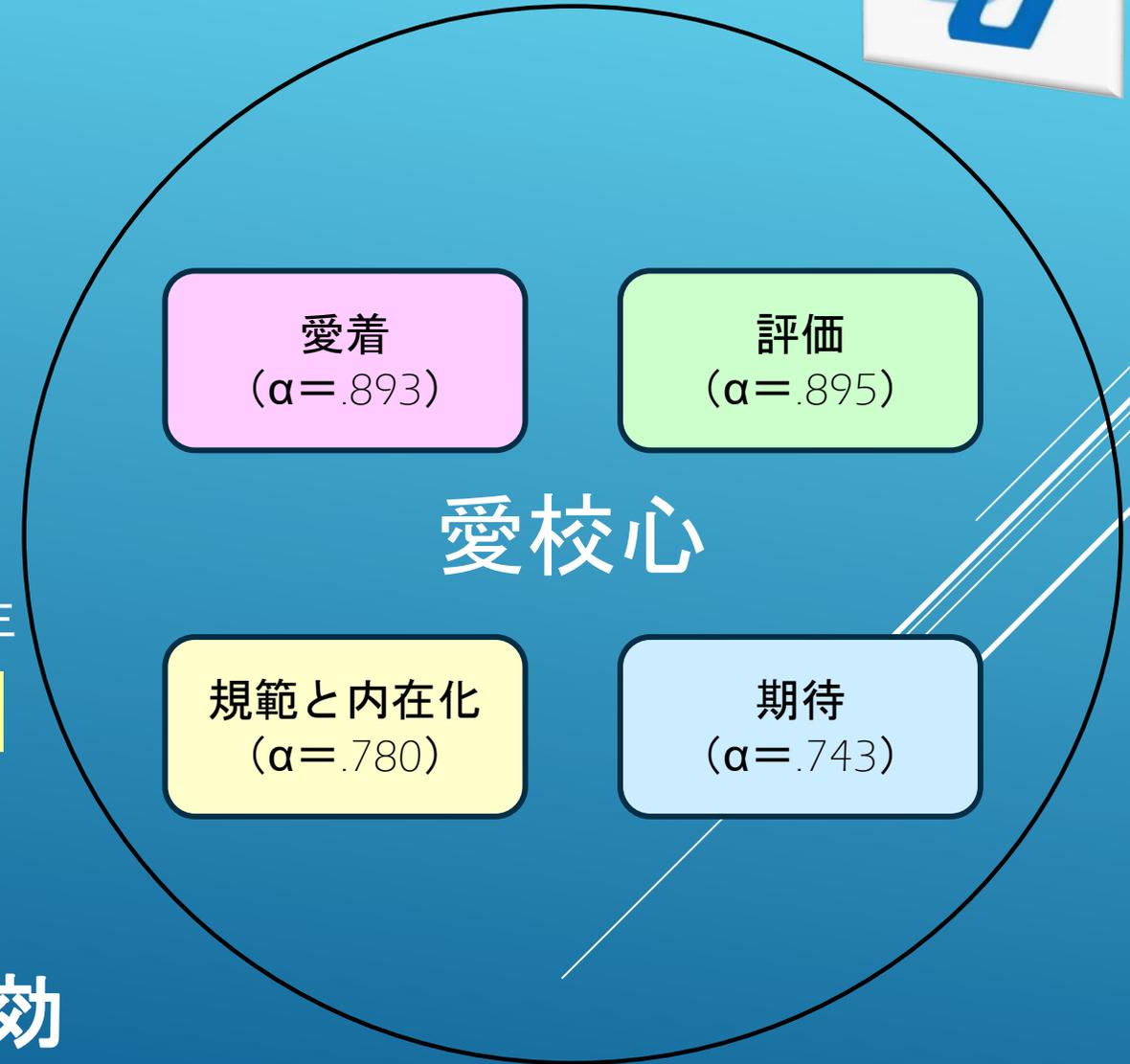
行っている学生

行っていない学生

低 ← 大学生活への満足度 → 高



スポーツを通じた積極的関与が有効



# 4 結果・考察



## 《本調査》

### 因子分析の結果

愛着 4因子

愛着因子 評価因子 内在化因子 規範因子

購買動機 3因子

大学帰属因子 製品因子 イベント因子

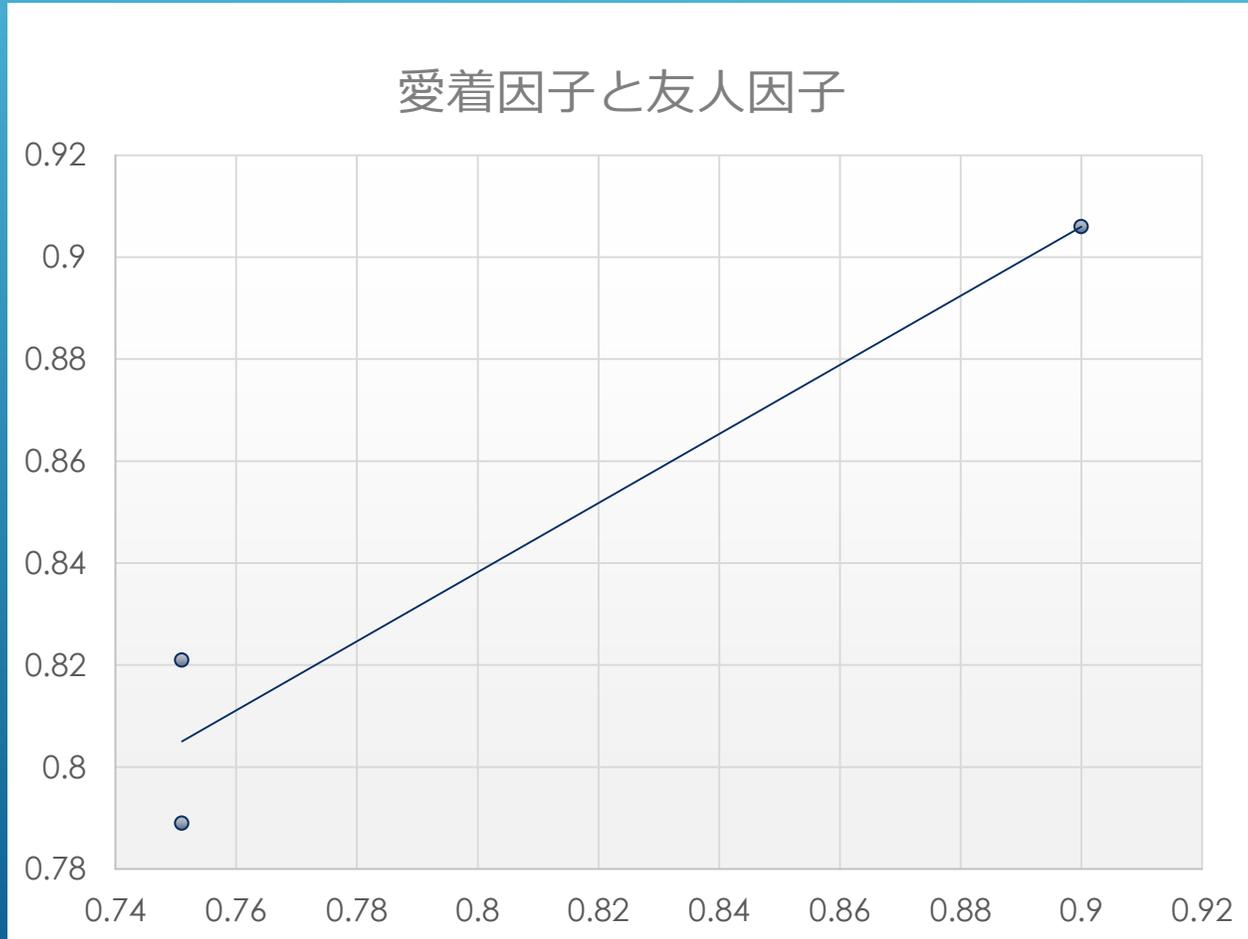
大学満足 3因子

友人因子 授業因子 施設因子

観戦動機 5因子

大学スポーツレベル因子 大学関係因子 など

## 4 結果・考察



友人関係の  
満足度が高い

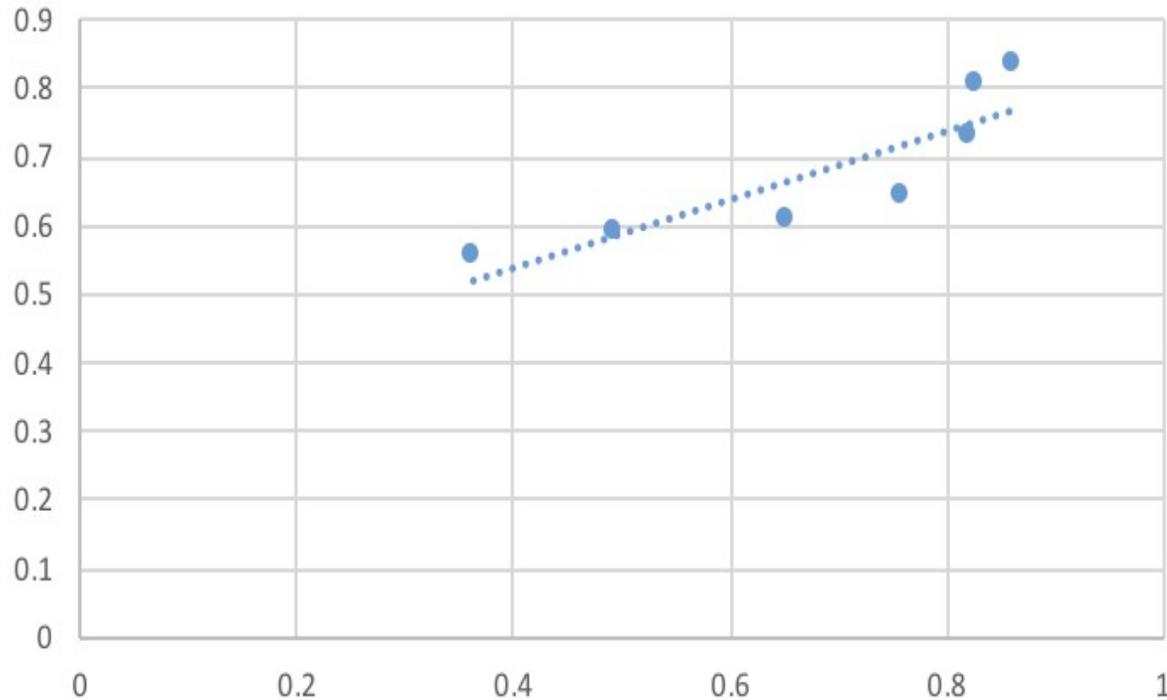


自分の生活の中心に  
大学の存在を  
置いている

## 4 結果・考察



評価因子と大学関係因子



大学に満足している人  
ほど、  
大学と自分の結び付きを  
感じやすく  
自分の時間を大学の仲間の  
応援のために使っている

# 4 結果・考察



分散分析

		平方和	df	平均平方	F	有意確率
愛着下位尺度	グループ間	4.205	3	1.402	2.647	.049
	グループ内	151.982	287	.530		
	合計	156.187	290			
評価下位尺度	グループ間	2.064	3	.688	.859	.463
	グループ内	229.875	287	.801		
	合計	231.939	290			
内在化下位尺度	グループ間	.723	3	.241	.323	.809
	グループ内	214.218	287	.746		
	合計	214.941	290			
規範下位尺度	グループ間	4.149	3	1.383	1.236	.297
	グループ内	321.188	287	1.119		
	合計	325.336	290			

モデルの要約

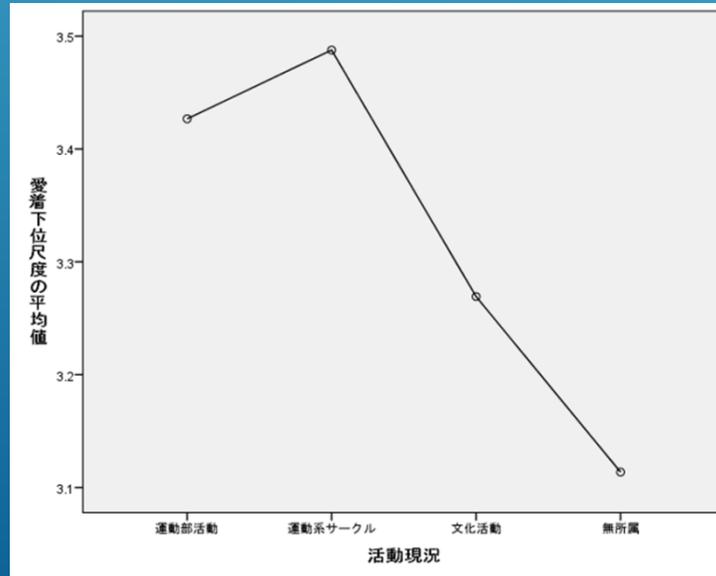
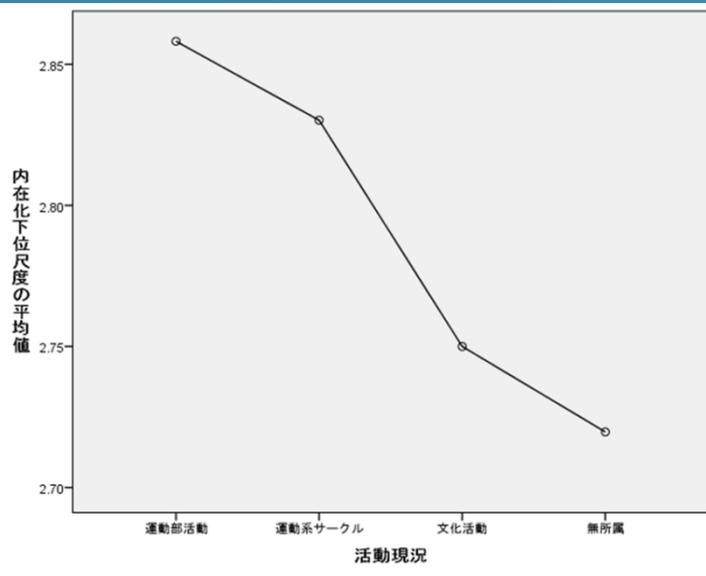
モデル	R	R2 乗 (決定係数)	調整済 R2 乗 (調整済決定係数)	推定値の標準誤差
1	.423 <sup>a</sup>	.179	.176	.666

a. 予測値: (定数)、部帰属新因子。

係数<sup>a</sup>

モデル		標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率	共線性の統計量	
		B	標準誤差	ベータ			許容度	VIF
1	(定数)	2.378	.133		17.879	.000		
	部帰属新因子	.277	.035	.423	7.935	.000	1.000	1.000

a. 従属変数 愛着下位尺度



## 5 結論



《事前調査》

閉鎖的なコミュニティが形成されている

改善する  
ために



- ・ 大学教育においてスポーツを行う機会を増やす
- ・ 気軽にスポーツが行える環境を整備することで、大学での居場所が増加

すなわち

スポーツを通じた積極的関与を  
高める機会の増進活動が重要

## 5 結論



《本調査》

大学への満足度  
大学との繋がり



友人関係の満足度が  
強く影響している

大学に満足してる人  
を増やす



大学間交流戦等の  
応援が増える



選手のカとなり、競  
技力向上に繋がる

**すなわち** 友人の満足度・大学への満足度の向上が必要

## 6 政策提言



### (1) 大学間交流戦等への参加・応援機会の増加

参加・応援することで

積極的関与 **増**

大学への愛情 **高**



大学への満足度 **UP**

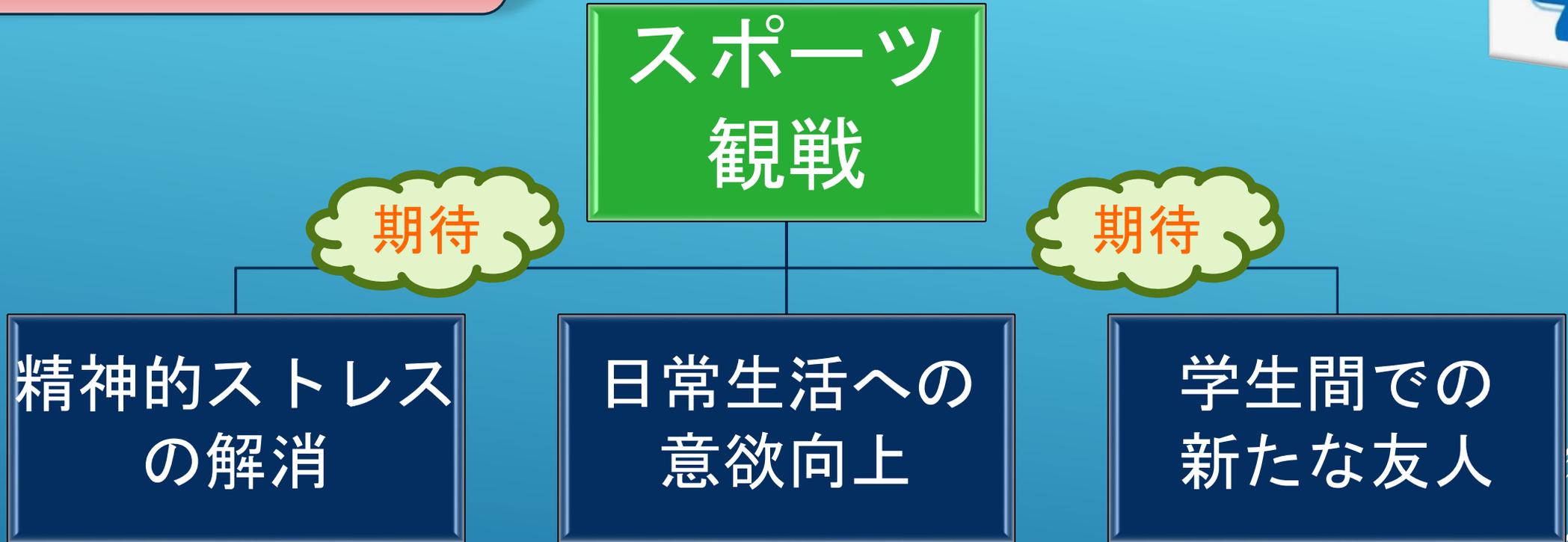
大学生活の **充実**

交流戦塔への学生の呼び込み  
大学全体への参加意識の向上



**重要**

## 6 政策提言



さらに

新たなコミュニティの形成  
スポーツ人口・観戦者の増加

## 6 政策提言



### (2) 交流戦応援グッズの作成および着用の増進

大学間交流戦で

**Tシャツ・メガホン**

など  
応援グッズを使用

帰属意識  
大学との繋がりの強化  
スポーツの宣伝効果

A thick, dark blue arrow points from the text '大学間交流戦で' down to the green box containing the benefits.

ご清聴ありがとうございました

